

スルフォネートと浄油システムで 産業発展に貢献

JSD(同) 代表
鈴木 英司氏に聞く



Q 会社概要を教えてください

当社は、2008年に潤滑油の原料・添加剤を扱う専門商社としてスタートしました。2015年に、潤滑油添加剤として使用される各種のスルフォネートのメーカーであるメキシコのキミカ・リボソルブレ社と契約し、日本で唯一の正規代理店として事業を拡大してきました。

また、完成した潤滑油、作動油などを使用する製造業、建築、エネルギー関連の事業所のために、精密な潤滑油のろ過を可能にする英国製のオイル・クリーニング・システムおよび、潤滑油の劣化状況を常時オンタイムで監視しネット上で確認できる常時オイル監視システムを供給しています。

最近の自動車産業の急激なEV車へのシフトは、潤滑油産業全体に大きな変革を迫っているほか、新型コロナウイルスによる中国の港湾機能不全や、米国での港湾ストライキという悪条件も重なって、現在の国際流通網はこれまでにないような混乱の様相を呈しています。

このような危機的な状況下、当社の役割は、まずは必要とされるスルフォネートを必要な量、必要なタイミングで日本の顧客に確実に届けること、そして、潤滑油や作動油、タービン油な

どを可能なかぎり長く使用し、無駄な廃棄オイルを出さないよう、最高水準の浄油技術を普及・徹底させることを考えています。

Q 注力している製品は？

まず、オイル・クリーニング・システムである「デルタゼロ」は、オイルタンクから引き込んだ汚れた潤滑油を0.1 μ mの微細なレベルでろ過し、清浄になった潤滑油を再びオイルタンクに戻すバイパス方式を採用しています。従来の機械保全で使用されるオイルフィルターは5~10 μ m程度の精度ですが、同品のオイルフィルターは0.1 μ mの精度でも目詰まりを起こさないのが特徴です。

同品を使用すると、ほとんどの事例で数ヶ月のうちにオイル清浄度はNAS等級の4~5級程度に改善しますが、その効果が最も顕著に表れるのはサーボバルブの不具合解決です。不具合の原因となるワニス、オイルに分散する1 μ m以下の酸化物が直接パーツ表面に付着して発生しますが、同品は0.1 μ mの精度でオイルクリーニングをすることで、ワニスを前駆体の段階で除去できます。

常時オイル監視システムは浄油機との組合せでの使用を想定していましたが、このシステムを単独で使いたいという問合せも多く、力を入れている

ところです。英国のメーカーもサポート体制を組んでくれています。

Q 今後の展開は？

潤滑油添加剤の過塩基性カルシウムスルフォネートは、環境負荷がなく安全性の高い材料のため、今後も需要が伸びていくと考えています。一方で、環境への影響から市場の流通が少なくなったバリウムスルフォネートですが、防錆性能の高さから、依然として使用せざるをえない産業領域があります。そうしたユーザーに対しても、引き続き安定して各種スルフォネートの提供を強化していきます。

また、常用発電コージェネレーションシステムなどに用いられるガスエンジンは、更油タイミングが短いことが弱点ですが、これを改善できる新型浄油機の取扱いも予定しており、今後は発電関連向けの顧客にも貢献できると考えています。

当社の事業を展開していくことにより、重要資源の有効活用やSDGsの推進に寄与できると考えています。現在の困難な時にあっても『虚仮の一念』の思いでユーザー企業の利益を第一に考え、供給責任を全うし、潤滑に関する知見を一層深めて「日本の産業発展に貢献する」企業となるよう、力を尽くしたいと思っています。